

平成23年度 知床世界自然遺産地域
第2回 適正利用・エコツーリズム検討会議
議事要旨

◇日時 平成24年3月13日(火) 13:00-16:00

◇場所 羅臼町公民館 2F 大ホール

◇会議次第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略(案)の合意と試行について
2. 個別部会等からの報告
3. モニタリング調査について
4. その他

閉会

◇議事要旨

【 開会 】

【 あいさつ 】 羅臼町町長、科学委員会委員長、座長

【 議事 】

1. 知床エコツーリズム戦略(案)の合意と試行について

資料1-1: 知床エコツーリズム戦略(案)

資料1-2: 知床エコツーリズム戦略 付属資料

資料1-3: 第2回起草部会からの変更点

資料1-4: 平成24年度以降のスケジュール(案)

資料1-5: 平成24年度における知床エコツーリズム戦略(案)の試行について

(参考資料 平成23年度第1回検討会議後の経過)

(事務局 三宅)

- ・知床エコツーリズム戦略案、第2回起草部会からの変更点について、資料1-1、資料1-2および1-3に基づき説明。なお、付属資料については、今後、精査する予定。

(事務局 重藤)

- ・引き続き、エコツーリズム戦略の再確認と具体例を挙げての説明。

(座長)

- ・最初の説明では、エコツーリズム戦略全体を振り返って、次に、この戦略がどのように試行段階から動いていくのか、という話であった。
- ・この戦略は、新たなルールではなく、皆さんが使える道具が一つ増えたのだと理解してほしい。
- ・1年間の試行期間を設け、その中で使い方を学んで行こうという提案。
- ・議論の前に、質問や確認事項があれば、伺いたい。

(斜里山岳会 滝沢)

- ・資料の誤りを訂正していただきたい。
- ・資料1-2付属資料案、年表、エコツーリズムの経過の2ページ目、第3次知床ブームのところの、1990年代後半羅臼岳が日本百名山に取り上げられた、というのは誤り。深田久弥が、この本を書いたのは1964年なので、ここで書くなら、日本百名山ブーム、ツアー登山ブームで羅臼岳に登山者が多数来訪とすべき。

(座長)

- ・なかなか気づかない部分の指摘である。単純修正ということでお願いしたい。

(知床財団 山中)

- ・この戦略案の内容確定にあたり、今日、まだ議論する時間はあるか。確定するのは9月

なのだろうか。前回の会議での要請が十分反映されていない、また、時間が無くて発言できなかった部分もあり、議論できる時間があればお願いしたい。

(座長)

・今までになかった試みでもあり、試行期間中に修正する部分もあるかと思う。いまパーフェクトでなくても、試行期間中にパーフェクトになればいいとも考えているが、もちろん、今この場で発言していただいても構わない。確定するのは、来年か。

(事務局 野川)

・このあと、資料1-4を使って説明予定である。平成25年3月頃に24年度の第2回検討会議を開き、その場で最終決定をしたいと思う。それまでに、一般の方にも広く知ってもらうため、パブリックコメントを実施する。

(座長)

・もともと、皆さんから130件あまりの意見をいただき、更に起草部会でも多数の意見をいただいた。それが全て反映されているかという点と難しいが、もし、重大な訂正などがあるなら、この場で是非発言してほしい。来年度は、起草部会のようなものは持たず、事務局中心で文案を修正していくことになる。

(知床財団 山中)

・4点ある。2点は、前回発言できなかった内容。「現状と課題」の部分で、現在生じている課題と、今後予想される課題について、先端部地区・山岳地域における海難・遭難、ヒグマによる事故等の発生の危険性、を追加したいというもの。
・3点目は、基本方針(2)の法的な規制というのを、法的な担保を持つ利用システムの設定を地域合意の下に行う、というように修正する。
・4点目は、具体的方策の部分(2)で、脆弱な自然環境を利用する登山や先端部地区の利用、野生生物の観察等に関しては、専門的な知見に基づくルールや法的担保に基づく利用システムの設定を地域の合意の下に設定する必要がある、と修正することを提案する。

(中川委員)

・山中さんが最後に言われた点であるが、起草部会でも議論が出た部分である。ルール遵守するものは不利益を得ないというのは当たり前のことであるが、ルール遵守を徹底させるための方策をここで明記する必要があるのではないか。

(知床斜里町観光協会 上野)

・今後増えるであろう、現場に携わるガイドに対する言及も、もっと有っても良いのではないか。

(座長)

・では、前段の山中・中川両氏の発言から検討していきたい。ルール自体よりも、ルールを徹底するために厳格な著し方が必要との意見であった。
事務局の意見はどうか。

(事務局 三宅)

・法的な規制については、具体的方策(7ページ)の(1)利用のコントロールで記載している。

(事務局 野川)

・今後、両氏と個別、具体的に文案修正をしていき、修正したものを皆さんに送付したいと考える。

(事務局 重藤)

・前述の「脆弱な自然環境を利用する登山や先端部地区の利用、野生生物の観察等に関しては、専門的な知見に基づくルールや法的担保に基づく利用システムの設定を地域の合意の下に設定する必要がある」という表現について、他の方からの意見を伺いたい。

(羅臼遊漁釣り部会)

・ルールに関しては、各地域や団体によって自分達のルールを持っている。それ以外の一般の人に対するルールを、各自のルールの上に総体的に作成して、守ってほしいとい

う意味でよいのか。

(座長)

- ・特定の部会や協議会などの団体で作成したルールを、検討会議の中でどのように位置付けるかという点、提案されたものをここで議論し合意されれば、全体のルールと認められるということになる。いままでは、独自のルールで終わっていたものが、全体で共有されるということ。
- ・先ほどの事務局からの確認について、もう一度説明されたい。

(事務局 重藤)

- ・先端部地区を特別扱いしてよいのか、みなさんの意見を伺いたいということ。高山帯や湿原と同じように、先端部地区は特別な点だと。野生生物や脆弱な自然環境を利用する場合と同じように、専門的な知見に基づくルールを決めましょう、ということでのいいのか、ということ。

(座長)

- ・特別扱いという発言の主旨ではないと思うが、如何か。

(知床財団 山中)

- ・話題が違う方向に向いている。前段の基本方針で、専門的な知見に基づくルールの設定、法的な部分、地域合意に基づくものが必要と述べており、それに対応する部分が具体的方策に必要なのではないかと。その具体的方策の守るべきルールの設定と指導のところと似た文章があるので、抜けている部分も含めて補修し、よりわかりやすくするために、脆弱なところを歩く登山や先端部の利用とか、希少ばかりではないが野生生物の観察などに関する文章も入れてはどうかということ。

(知床財団 山中)

- ・先ほど、事務局から指摘され気付いたが、その上のルールのところに法的な部分を入れていただいているので、上の部分と下の部分とで、文章を整理すれば住み分け出来るのではと思う。
- ・先端部地区については、いまの話とは違う話だが、地元でずっと活動してきた我々にとっては、先端部は聖域である。

(事務局 野川)

- ・先ほどの修正のテーマについて、具体的方策については、山中さんにもご理解いただいたようだが、基本方針（4ページ）のところ、ルールと法的規制、地域合意ということが書いてあるのだが、それに、担保を持つ利用システムという言葉が出たが、それを入れ込むべきなのかどうか。このままでも、すべてを網羅しているのではないかと。もう一度確認したい。

(知床財団 山中)

- ・法的なものというのは規制を伴うが、その地域も含めて合意の上で進めるという戦略に於いて、規制という言葉在前面に出して推し進めるのも如何なものかということと、日本の国立公園の利用から抜けている観点だと思うのだが、規制というのは、自然を守るという意味も含まれるが、ある程度の制限を加えたり、利用の仕方を法的にコントロールすることにより、利用者の体験の質を担保する、或いは、何も無い状態よりも数倍数十倍の良い体験が得られる、という要素もあるのだと考える。そのことを考えると、法的な規制という、どこかきつい言い方よりも、法的担保を持つ利用のシステムとか在り方というほうが、いいのではないかと提案である。

(座長)

- ・この発言の主旨は、非常に妥当と考える。戦略の基本は、知床の価値、ブランドとしての価値を上げた状態で使ってもらおうということであるので、規制をするための規制でなく、むしろ、利用し易くするためのルール設定というように、表現を改める、修正するように、事務局の対応を願いたい。

(事務局 野川)

・利用のためということで対応できるところと、厳密に守らなければならない規制がある場合もあるので、内容を精査して直すところは直すということにしたい。

(座長)

・現行法で定められているところを逸脱せよということではない。何箇所かの見直しをお願いしたい。

・私からも修正点を。いまの指摘があった4ページで、地域の合意の下にという表現が後にきているのを、先にもってきてほしい。地域の合意や支持があつて初めて、ルールや法律の規制を積極的に活用する、という表現に改めてほしいが、どうか。

・以上を含め、山中さん・中川委員と事務局で相談をし、座長の私も承認の上で、文案を修正し、試行版としたいがよろしいか。

(羅臼遊漁釣り部会 石見)

・地域が主体というが、それをまとめるのは行政なのか。我々一般人の問題提起も受け入れてくれるのか。

(座長)

・これまでは、事務局側の説明が主であったが、今後は、皆さんから提起された内容を、この場で、全体の場で、妥当であると思えば検討に入るというスタイルに大きく変わると思われる。そのときには、関係する役所も含めて協議することになる。ただ、もしも個別の案件であれば、いまは、戦略の合意が重要なテーマなので、あとで、それぞれの部会、もしくはその他の報告の中で触れていただきたい。

・次に、ガイドのテーマに戻したい。ガイドについては、起草部会の提案を受けて、8ページの、ガイドの育成とガイド利用の推奨という項目を入れているのだが、十分ではないか。また、観光協会として、具体的に何をさせていただけるのかという話にもなるが。

(知床斜里町観光協会 上野)

・会議や議論の場の作り方は十分でも、実際の現場をどのようにフォローするのかという具体的な言及があまりにも少ないのではないか。ガイドが担っていく役割を考えると、育成、レベルアップも含めて、そのことに対するしっかりした言及をするべきではないかと思う。

(中川委員)

・先ほど、上野さんの意見が、守るべきルールの設定と指導というところから出てきたということに注目したい。やはり、ガイドが現場を一番良く知っている、ということと、実際に現場で担う役割も大きい。ルール遵守の体制も、現場の状況を会議にフィードバックするという点でも、ガイドが担う役割は大きい。この部分に、そのためのガイド育成みたいなことも含めて、ガイドについてきちんと入れるべきではないかと思う。

(座長)

・ガイドの重要性をもっと強調すべきということではどうか。ガイドの問題では、知床五湖関連で、すでに大きな役割を果たしていると思うが、愛甲委員、いかがだろうか。

(愛甲委員)

・確かに、ガイドに関する記載がどこに出ているのかと思っていた。ガイド育成と利用の推奨の部分で大きくは出ているが、いままでの活動などが入っていない。基本方針の地域主体とか自立とか、共有協働連携のあたりにガイドに関する記載が有っても良いのではと思う。

(座長)

・8ページまでに、ガイドの表現を記入記載したいと思うが、事務局対応いただけるか。

(事務局 野川)

・確認だが、基本方針(2)で、地域のガイドとか、管理側と利用者側を結ぶ形でガイドがいるというような文面を追加するという点では、検討したい。

(知床斜里町観光協会 上野)

・環境省の予算がわからないが、現場を担い経済をつくるガイド達のレベルアップを図る

ような、意欲が持てるような計画にさせていただきたいと思うので、そのような言及をしていただきたい。

(座長)

・戦略が出来る、ガイド育成の仕組みなどの提案も出来るようになると思う。環境省の予算という話が出たが、例えば、来年度以降、ガイドの育成システムを作りたいという提案をし、観光協会ですら出さずから、町からもいくら出してもらい、環境省からもいくら出してほしい、というような話は、ここでさせていただいて構わないということ。

(環境省 中山)

・補足したい。ここは、何かをしてほしい、という陳情ではなく、座長が言うように、例えば、まず、観光協会は何をしたいのかという自らの提案があって、そこから初めて動いていくと場所である。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・ガイドというと、陸域のガイドばかりが話の中心になっているようだが、羅臼町は特に、海が、夏も冬も観光の大きな役割を占めている。海のガイド、マリンガイドの部分も付け加えていただきたい。

・冬の観光は、写真撮影や流氷観光が主力で、約一割強が外国人観光客である。オジロワシやオオワシを、流氷の上の魚を使って撮影するというのがメインの観光で、批判もあるのは承知であるが、この観光がなければ、羅臼の冬の観光客はゼロに近くなる。ここでは、餌やりの是非やその手法についても話し合えたらいいと思う。ぜひ、指導やアドバイスをいただきたい。

(座長)

・海域のガイドの件については、ガイドというと一般的に陸域を想像するので、文章の中では、陸域と海域を含むという表現を入れるということ、事務局はよろしいか。

・後半の餌付けの問題は、検討会議の中でも繰り返し出てきていることでもあり、今後は、できれば、観光船協議会として、部会化も含めて検討して行くのはどうか。陸域との連携も出来るし、色々なことが可能になるのではないか。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・そういう部会を設けられるのであれば、ぜひ前向きに進めて行きたい。

(知床ガイド協議会 山本)

・観光協会の方からも、ガイドの重要性を唱えていただきありがたい。観光船協議会もガイド事業であるし、今後は、知床で利用者の案内等の活動をする方には、ガイド協議会に属していただければと考えている。

(座長)

・陸域、海域一体のガイドの全体組織があった方がいいという提案であるが、来年度以降、例えばこういうガイドの協議会を連合して、ガイド部会というようなものを持って、ガイド育成などの提案をしていただくのも良いと思う。ガイドの質と量の充実は、この知床にとって、非常に重要な部分である。ガイドの組織や仕組みについても、ここで扱えると考えてよいか。

(事務局 野川)

・以前からも、そういうアイディアはあって、例えば、ガイドの仕組みだけではなく、アクセスとか、そういうことも含めて、いろいろ考えられると思う。

(座長)

・今後、パブリックコメントで、地域外の方にもこういう仕組みが出来るということをお知らせすることになるが、地域外のガイドの方から疑問や問合せが来ると思われるので、早いうちに、ガイドの横断的なガイド部会を作ってください、具体的にここでアクションを起こすのがよろしいのではないかと。事務局も支援していただきたい。

(羅臼遊漁釣り部会 石見)

・ガイドに関しては、ガイド育成大学のようなもの、5年制でも6年制でもいいので、国

が育成するのがいいのではないか。民間では、偏りができるのではないか。地方や団体に任すといっても財力はないのではないか。

(座長)

・国に期待するのも難しい。むしろ、皆さんで、こういう風にやりたいという提案を基に、お金を貰いに行く、と考えるといいのではないか。

(環境省 中山)

・いままでも、研修やいろいろな制度、認定制度などを作ったりしてきたが、あまり上手く行っていないのが現状。ガイドというのは、民業であり、環境省が指導・養成するというものではないのではないか。先ほどの観光協会さんの話のように、我々も一緒に頑張りたいので、この検討会議のプログラムの一つとして、システムとして、新しいものを作っ
て行きたいと考えている。

(座長)

・他になければ、最終的にこの戦略で試行に入って良いという合意をいただきたいと思うが、如何だろうか。

・特になければ、いただいた意見で若干修正をした上で、エコツーリズム戦略の案とし、平成24年度4月1日より試行段階に入りたい。これについては、新しい体制に移行するという事なので、一年間の試行期間を設け、その間に、戦略の内容、実施方法についても相談しながら進めるということで、承認をいただきたい。(合意)

・合意をいただき、お礼申し上げます。

(事務局 野川)

・資料1-4、資料1-5に基づき、24年度以降のスケジュールと試行についての説明。

(座長)

・今程説明があったのは、24年度以降の試行のスケジュールと試行のやり方についてである。かなり詳細に説明があり、例えば提案の審議は2件までとするとか、決められた印象を持たれるかもしれないが、これは、羅臼町、斜里町、それから環境省、林野庁、北海道庁についても初めての経験なので、事務能力等からして2件位が丁寧にやりとりできる限界だろうという事で、2件を目安としている。それ以外は提案してはいけないという話ではないので、特に、1年以上かかると判断されるものについては、提案をしていただき、ゆっくり審議をするということをしていただければ2年かけて答えを出すというやり方もあるので、あくまでも目安としての2件と、ご了解をいただきたい。

今の説明に関して、何かご意見ご質問があればお願いしたい。

(斜里町 岡田)

・確認なのだが、今の戦略の試行については、実際の受け付け、提案の受け付け部分も含めての試行ということで、実際にやってみて不具合があれば見直していくということで、宜しいのか。

(座長)

・その通り。やってみて、例えば、もっと斜里町と羅臼町が関わりを大きくして良いと言う事であれば、より大きくする変更も可能。

(斜里町 岡田)

・戦略の案の9ページ、戦略の実行体制のところ、提案承認の仕組みの部分があるが、検討会議の提案に当っては、斜里町、羅臼町の役場において、提案内容の妥当性や必要な手続きについて、事前に相談すると言う文言がある。提案の妥当性について、ここで先ずフィルターをかけるというイメージなのか。それとも、出てきたものについては、全部受け付けて上げていくのか、どちらをイメージされているか確認したい。

(座長)

・妥当性というのは、誤解を招くと思うので、表現を改めた方がいいかもしれない。ここで言う妥当性は、余りにも小さい問題、わざわざここで皆さんが時間を取って議論を

する必要もない問題などが出てきた時、それは、部会で検討せずに、今すぐやれることではないか、というようなアドバイスを、町からしていただきたいということなので、町に相談に来た段階で、提案すべきか否かという議論をする、審査をするという意味ではないと考えているが、宜しいだろうか。

そこで最初にフィルターを掛けるという話ではない。アドバイスというふうにお考えになって頂けないか。

(斜里町 岡田)

・大きい問題、小さい問題という部分での一定の判断は、役場レベルで1回あるということにはならないのか。

(座長)

・簡単に解決するような問題は、わざわざ検討会議で議論しなくてもいいのではないかとアドバイスをしていただきたいと思うが、ここで、議論にかかるという問題は、構わず上げてもらっても、私は良いと思う。ただし、試行段階の来年度については、おそらく何十件も提案があると処理がしきれなくなるので、スタートは低めの件数、2、3件からスタートするという事をお願いしたいと思う。

(斜里町 岡田)

・役場から上がって行く段階で、それは2、3件くらいに絞ったものが上がって行くというイメージで宜しいか。

(座長)

・相談されたものは、事務局と一緒に全部見ていただきたいと思う。その中で、来年度、解決をし、言うなれば成功体験をする。それを体験してもらうために、妥当なものから、実現性のより高いものを選んで、来年はやりましょうと言う事。再来年度以降は、この件数が増える事は当然予想される。如何だろうか。

事務局の補足はあるか。

(事務局 野川)

・様々な提案やその相談になる部分が、役場の方にいくかと思う。情報は、こちらの事務局にも提供していただければと思っている。実際提案があった時にどういう対応をするのかというやりとりの部分を、今度は事務取扱要領として作成しなければいけないと考えている。やりとりの部分は、事務局も一緒に考えていけるような形が取れればと思っている。基本的には、フィルターをかけるというものではなく、この戦略の内容を網羅できるものなのかというようなことのアドバイスをいただければと思っている。

(座長)

・おそらく、今の事務局の説明が妥当だと思う。アドバイザーということである。

検討会議へ提案する色々な資料を作るのは大変だが、町の支援があれば資料を関係団体の皆さん自身で作っていけるようになると思う。そのお手伝いをさせていただくということ。それができるのは、事情のよくわかっている両町にやっていただくのが一番妥当だと私は思う。

(知床財団 山中)

・確認と質問だが、試行という事で、この提案する試行は知床のエコツーリズム戦略、或いは保護と利用に絡む事で、課題であるというようなことがあって、議論する提案内容があれば、それを提案し、それに係わる部会についても必ず具体的に提案しなさいと言う事で良いのか。

(事務局 野川)

・事務局としては、想定メンバーを示していただきたいと考えていた。

(知床財団 山中)

・再度確認だが、その課題となるだろう事と、その提案内容を単に提案するだけでなく、それに係わる部会も必ずワンセットである、その内容も提案すると言う事か。

(事務局 野川)

・部会として集まる際に、参加して頂くべき方というのを、検討会議の構成員等からピックアップする。検討会議で議論する段階で、資料に示している3点の項目を見て先ず優先順位がつけられ、部会を設置するが、この参集範囲で良いかとなる。この範囲で良いとなればそのまま検討が進み、更に助言としてこの方もプラスした方が良いのではないかという議論があれば、そういう方をプラスして部会化していく、そのような手順で考えている。

(知床財団 山中)

・その細かい事ではなく、常にワンセットであるということが良いのか。必ずセットで提案しなくてはならないと。

(座長)

・来年は試行なので、もう少し気楽に考えていただきたい。とにかく、やってみて、都合が悪ければ改めると、都合がよければ、それはもっと延ばすということで、試行させていただきたいのだが、宜しいか。

(知床財団 山中)

・その想定メンバーの選び方云々ではなく、提案は、必ずセットで、個別部会の立ち上げとセットという提案でなければいけないかという事の確認である。

(座長)

・今はそれでスタートしたいと思うが、都合が悪ければ変えていきたい。手続きの問題なので何とでもなると思う。

(知床財団 山中)

・質問がもう1点あるが、その課題について、すでに検討の場があるものがある。例えば、カムイワッカは、今は検討の場が2つあるのだが、そういうものとの整合性はどうか。それとも、無関係に課題であれば提案すれば良いのか。もしくは、提案すれば、例えば斜里町役場が調整するという事か。既存のものと重複するものについてはどう考えたら良いのか。

(座長)

・実際に今ある問題を避けて通ることはできないので、その問題を新しい視点で捉え直せるということであれば、提案していただければ良いと思う。それと、以前からお願いしているが、カムイワッカの検討の場が三つあるのを一つに統合していただきたい。五湖のあり方協議会もできれば部会化して、全体で共有できるようにしていただきたい。この戦略とは別に、私から皆さんに以前からお願いしていることであり、その統合は、引き続き進めていただきたいと思う。検討会議で共有ができれば、様々な知恵が出せるのではないかという意味なので、その点は誤解のないようにお願いしたいと思う。

(事務局 野川)

・既存の部会で取り扱かえるか否かという事についても、その提案があった時点で、この検討会の場で、例えば既に羅臼湖部会があるからそこで検討していただきたいとか、新しく部会を設置すべきだとか、そういう議論ができればと思っている。

(座長)

・それでは、もし特別何かなければ、4月以降試行に入らせていただく。それについては、今議論した通り、1年間で皆さんの戦略を現実化するための試行錯誤を進めるということで、よろしくお願いしたい。

(知床斜里町観光協会 上野)

・試行の案件は2件までを目処にと書いてあるが、提案とその設置する部会について、1件の課題の大きさはどのくらいのイメージを持っているか。

(座長)

・提案の範囲というのは、皆さんもイメージがつかかっている状態だと思う。座長の私も具体的に提案の大きさをどこまでにすればいいのか、答えを持っているわけではないが、余りにも小さい、すぐ実行できることを、ここで提案するのは、皆さんの時間を浪費することになるので、ある程度の大きさのものを想定している。例えば、まとまった2つの案

が出たものを1つにまとめて議論ができるのではないかと、という組み合わせはあると思う。おそらく、具体的に一定の地域に対する問題、もしくは先程のガイドの様な一定のテーマに対する問題で提案をしていただく、それに加えて提案の中で具体的に何かができることに繋がる提案、例えば、エコツーリズムの改善についての提案とか、エコツアーのレベルアップについてという提案だと、ここで議論をすることではなくなるので、具体的なものとセットになれるようなものと考えていただきたい。なかなか良い説明はできないが、事務局は何か具体的な考えをお持ちか。

今の段階では、特に設定をしなくてもいいと思うが。

(事務局 野川)

・具体的に何かを示してしまうと、そればかりの方向になってしまうので、皆さんの提案を待ちたい。

(座長)

・気楽に提案していただき、その中から考えればいいと思われる。

(間野委員)

・色々な提案がなされると思うが、事前に役場に相談する過程で、例えば、共通する課題の提案を、あちらの人も考えているといったことも判明するので、そのときには一緒に提案してもらい、結果的に一本化して検討する、という判断もあって良いと思う。事前にあれこれ考えるよりは、色々柔軟な運用も、場合によっては可能だと考える。だからこそ試行なのではないかと思う。

(座長)

・間野委員のご発言の通り、特に1回目のここでの検討と言うのは、可能性の調査の意味も含めるので、特に来年は試行であるので、気楽に提案をしていただき、こういうことも考えている、こういう事も解決したいと考えているというように発信していただいて、その中から選んでいけば良いと思う。提案を見てみれば、その大きさも大体想定がついていくのではないかとと思われる。

－ 休会 －

2. 個別会合からの報告

資料2-1：知床五湖地区における取組の進捗状況

資料2-2：カムイワッカ地区における検討の進捗状況

資料2-3：ウトロ海域における取組の進捗状況

(事務局 野川)

・資料2-1、資料2-2および2-3に基づき、知床五湖地区、カムイワッカ地区、ウトロ海域における取組の進捗状況について説明。

(座長)

・資料2-3のウトロ海域部会は、昨年、ケイマフリの保全保護を中心にスタートしたテーマ。小型観光船協会の皆さんに積極的にこの事業に参加をしていただき、幾つかの成果が上がってきている。例えば、アンケートを積極的に配布していただき、そのアンケートの結果が、マーケティングのデータとして使えるようになり、良い循環が出来てきた。これはおそらく戦略の試行後の見本にもなると思う。神尾さんに伺うが、実際に、アンケート調査という、いままで環境省や管理側がやってきた所へ参加をしていただいているが、参加したことでのメリットは、皆さんに生じているか。

(知床小型観光船協議会 神尾)

・お客様の率直な意見が、ストレートに事業所に入ってくるので、それを会社ごとに検討し改善することで、お客様の満足度につながるという部分では、効果があったと思われる。今後も、協議会の中では、進んで協力していこうという話になっているので、継続してやっていきたいと思う。

(座長)

- ・羅臼も、このような機会があると思うので、ぜひ、観光船協会でご検討願いたい。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

- ・私たちも、鷲の数などは毎日カウントしている。鷲の数、鯨類を見た数、鳥の分布や種類といった私たちのデータも大いに利用してもらえればと思う。お金をかけなくても出来ることである。

(座長)

- ・それだけデータをお取りになっているなら、検討会議の現場でご発表いただいてもいいのではないかと思うので、また相談をしたい。
- ・資料2-1から3に関して、ご意見ご質問はないか。

(小林委員)

- ・カムイワッカ付近についての協議会が2つある。今回、戦略の試行についても了承された。その中で、自然環境を保全するという観点では、林道を一般開放すれば路面に非常にコストがかかってくる、あるいは林道周辺の影響も出てくる、自動車の需要にも影響も出てくるといった議論がこれまでもあり、自然環境の懸案をどうするかという観点からの論議が必要。また、カムイワッカ湯の滝については、当然リスクの問題があり、自己責任と管理責任の分担をどうするかという議論も必要。

今は全く利用されていないが、30～40分かかかる林道における様々な自然環境の理解の促進という意味では、ガイド利用も考えられる。

カムイワッカの利用をもう少しトータルに考えていく必要がある。

エコツーリズムの新しい方針として自然環境への影響が小さく、より知床の環境の理解を深め、この地域にとってより経済利益をもたらすような仕組みとして考えてはどうかという提案である。

この提案の魅力は、去年から五湖の新しい利用が始まり、カムイワッカにも新たな仕組みができると、今度はオプションができる。知床五湖とカムイワッカの組み合わせも提案できるという点で、知床の新しい試みである。カムイワッカの利用の議論が、ここ数年停滞していたわけであるが、本来のカムイワッカの持つ魅力、まさしく原生的な自然をどのような舞台で提供できるのかということ、知床観光の中で、一つの大きな議論の核になってくると思われる。これを契機に、戦略の議論の中の早い段階で、一つの形を示していくというのが重要なことだと思うので、できればご検討いただきたい。

(座長)

- ・カムイワッカ地区の利用を、新しい仕組みにできないかという提案だが、環境省はいかがか。いまは、シャトルバスとマイカーで利用することができるが、例えば、ここにガイドをつけて、五湖のような利用形態にすれば、新しい資源開発が可能だと思われるし、地元へのメリットも考えられると思う。このような枠組みで関係者の方で相談をいただければと思うが。

(事務局 野川)

- ・カムイワッカの地区においては、マイカー規制の協議会と湯ノ沢の利用対策協議会の二つの協議会があり、ここで二つの課題をそれぞれ検討している。一方で、昨年度から始まった硫黄山登山口の利用という新しい利用も生まれてきた。それについて統合的に議論ができ、計画が立てられる部会を設置する方向でこれまで検討してきたところ。まだ行政間の調整を続けているが、早い段階で部会化したいとも考えており、ここでご承認いただけるのであれば、関係行政機関で調整されたところでカムイワッカ地区の部会化というのを進めていきたい。

(座長)

- ・行政間での調整が若干残っているが、それが終了すれば具体的に一つの部会で検討ができるということである。戦略にかかわりなく以前から部会に移行してほしいというお願いもしてきたので、実現していただきたいと思う。

(知床斜里町観光協会 上野)

・カムイワッカ地区は未解決の課題が結構ある。滝や沢の利用の関係、アクセスのバスの利用の関係等、いずれも結論は出ていない。小林先生のご指摘のとおり、ここを含めたオプションができることは大きなポイントになっており、我々も早い結論は望んでいるが、なかなか現場は進んでいないような気がしている。

(座長)

・今までの経過もあり、色々議論を重ねてきたので、なかなか結論が見えない状況もあるかもしれないが、新しい枠組みを考えていただければと思う。例えば、小林委員が発言されたように、行き帰りの片道30分というのは、お客さんにとってはロスであるが、マイカーやタクシーにガイドが乗っていくということであれば、お客さんも満足ある体験ができ、ガイドの仕事を増やすことにもなる。

行政間の調整が進んだ段階で部会化を進めていただきたい。

資料2-4：羅臼湖地区における検討の進捗状況

資料2-5：知床連山地区における取組の進捗状況

(事務局 三宅)

・資料2-4に基づき、羅臼湖における検討について説明。

(事務局 野川)

・資料2-5、知床連山地区における検討について説明。

(知床斜里観光協会 上野)

・資料2-4の羅臼湖の関係だが、ルート変更ということで進んでおられるようだが、国道の駐車帯の話題があったと思うが、これはどういう対応になっているか。

(事務局 三宅)

・この部会でバス停の位置を新しく歩道を付け替える入口部分に移した方が良いだろうという結論になり、開発局にバス停の移設を依頼した。概ね実施していただけたような感触ではある。

(森林管理局 重藤)

・知床連山の二つ池に関しては、今後検討していくという課題であり、これについては部会化することは考えていないのか。

(座長)

・事務局内のことであれば事務局で話し合っていたいただきたいが、部会化で検討したほうが良いのであれば、来年度以降、林野庁から提案していただきたい。

(森林管理局 重藤)

・了解した。戦略を作ったので、この枠組みで議論したいと思う。必要に応じて検討していきたい。

3. モニタリング調査について

資料3-1：平成23年度 知床世界自然遺産地域の利用状況

資料3-2：知床の環境保全に関するアンケート結果

資料3-3：平成24年度モニタリング計画（案）

(事務局 三宅)

・資料3-1、資料3-2に基づき、平成23年度知床世界自然遺産地域の利用状況および知床の環境保全に関するアンケート調査について、説明。

(事務局 野川)

・資料3-3に基づき、平成24年度モニタリング計画案の説明。

(座長)

・引き続き、愛甲委員、庄子委員より五湖の意識調査とWEB調査の結果を、ご説明願いたい。

(愛甲委員)

- ・資料3-2、64ページ以降、知床五湖利用のあり方に関するアンケートについて解説。

(庄子委員)

- ・WEB調査について説明。
- ・どのような動機で知床国立公園を訪れているかというアンケート調査を行い、回答者の中で知床に来てみたいと答えた人（道内では1343名、首都圏では2662名）についての分析を行った。動機について、アウトドア体験がしたい、世界自然遺産を訪れたい、家族友人と時間を楽しみたい、旅館ホテルでくつろぎたい、野生動物などに出会いたいなど13項目を比較した。質問の手法として、13個の動機の中から4つの選択肢を設定し、一番重要なものはどれかを選んでもらう。これを13回繰り返す。同様に一番重要でないものについても繰り返してもらった。
- ・この結果、世界自然遺産を訪れたいという動機が1番強く、2番目が手つかずの現世的な自然を訪れたいという動機であった。この次に続くのが、ドライブしたいとか家族と友人と遊びたい、温泉に入りたい、食べ物を味わいたいという回答であった。3番目以降の動機については、他の地域にも共通していることなので、1番目、2番目の動機が知床に訪問者を呼んでいる要因になると考えることができる。
- ・非常に驚いたことに、道内の回答では野生動物との遭遇について13番中の13番目であった。あえて知床に来なくても遭遇できるからという理由であると考えられる。
- ・また、エコツーリズムに関する結果からは、訪問者は手つかずの原生的な自然を訪れたいとは思っていても、必ずしもエコツアーを求めている訳ではないと言える。
- ・野生動物との遭遇についても、道内の回答では動機として最低で、首都圏においてもあまり高くないということを示し精査する必要があると考える。

(座長)

- ・ご意見やご質問があればお願いしたい。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

- ・羅臼もウトロも野生動物を見に来る方々の評価は高い。だが、アンケートをとった人たち、特に首都圏の人は、ここの野生動物などの情報がなかったのではないかと。特に海域の情報は全く知らないのでは。我々の情報配信不足もあるが、それも踏まえて違う形のモニタリングもできるのではないかと。オジロワシ、オオワシの写真が、600mmのレンズが無くても撮影できる環境だが、一般の人たちには情報が伝わっていない。知床の情報は、みんなで共有して発信してほしい。

(知床財団 山中)

- ・この調査の対象の属性は、知床に来たことのある人か、ない人か、それとも混在しているのか。

(庄子委員)

- ・混在している。年齢層別に同じ数になるようにメールを配信していただいたので、来たことがある方もいるし、全く来たことがない方もいる。その中で、知床に来てみたいと言ってくださった方だけ分析している。

(知床財団 山中)

- ・その来たいという人の中で、さらに年齢とか性別とかそういう属性によって傾向は見られないのか。

(庄子委員)

- ・これから分析してみたい。おそらく年間50万人ほどのお客さんが来るので、先ほどおっしゃったように、野生動物に本当に興味を持っている方が10%でもいれば、相当な数になると思う。詳しいことは、またご報告させていただきたい。

(小林委員)

- ・野生動物をひとくくりで分析しているが、動物を分けて設問を設定した方がこれから知

床でパッケージングをつくる際にいいのではないか。動物別、場所別といった地域限定型の調査をしたほうが有効なものになるような気がする。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・オジロワシやオオワシの流氷の上の群れは、羅臼でしか見れないといわれている。シャチもそう。例えば、海洋の哺乳類は分けてモニタリングしていただければ、知床の地域経済とか活性化につながると思う。

あとは、鶴居村のタンチョウと、流氷のワシ、議論はあるだろうが、シマフクロウといった形で連携できれば良い。

鶴居村のお客さんたちが、もう少し羅臼に目を向けたら、羅臼も潤うと思う。こういう情報も、ぜひ配信していただきたい。調査にも付け加えていただければと思う。

(愛甲委員)

・色々とデータを報告したが、難しい部分もあり、一つはきちんとデータが拾い上げられていない分野がある。ご発言と関係があるが、羅臼側の観光客のモニタリングとか、冬の利用。それから海域の利用についてウトロは結構データをとっていただいているが、まだ調査が足りていない部分もあるということと、調査をやればやるだけの悩みでもあるのだが、それぞれの調査の関係も検討する必要がある。ダブルカウントも含んでいる。五湖と海域の両方に行かれる方もいるので、その辺をどう評価するか。一度きちんと精査をしないとではない。

(座長)

・ウトロの海域部会は、小型観光船の皆さんに大変な協力をいただいている。回収したアンケートによって、非常に良い面が出てきているので、羅臼もそれを並行して試みれば、海域全体でそういうデータが取れるので良いと考える。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・私たちの協議会としても進めていきたいと思っている。

(座長)

・郵送による回収をしており、郵送による回収の費用について、ウトロ側は環境省が来年度まで負担するのだが、観光船協議会でその費用を負担していただけないか。それであれば、来年度は、ウトロ側と羅臼側の両方で、同時に同じデータを取ることもできると思うが、環境省はいかがか。

(事務局 三宅)

・羅臼の観光協会とは以前から相談をさせていただいており、配布は、羅臼の観光事業者にやっていただき、回収を、例えばビジターセンターにボックスを置いて、そこで回収できれば郵送費もかからないという検討もしている。費用もかかる話なので、羅臼町内の関係者と相談していきたい。また、設問の統一だが、羅臼とウトロでたとえば観察種が違うという部分もあるので、もう少し検討させていただきたい。

(座長)

・対象とする動物、野生生物が違うので、そこは差があってもいい。ただ、訪問回数の調査など、共通化できる場所は多いと思うのでお願いしたい。また、回収方法も統一すると同じように比較ができると思うので、ご検討願いたい。

(羅臼遊漁釣り部会 石見)

・動物・自然に対してのアンケートだが、人間のアンケートというか、ちょっと遊び心を入れることは可能か。飲食店組合の組合長を10年間やっているのだが、いまものすごく沈んでいる。観光客が来た時の参考にしたい。

・エコツーリズムというのは、人間や文化など、いろいろなものが入っているが、例えば夜の世界の部分というのは観光から抜けがちである。

(座長)

・それは可能ではないか。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・石見さんのご発言も含めて、船、海、羅臼全体をまとめて調査できるものを考えたい。

(座長)

・観光一般に関する設問の設定だが、決して意味がないことではないし、積極的に実施したらいいと思う。野生生物や自然環境関係であるなしに、観光業界との関連が出てくる。おそらく、マーケティングデータとして利用していただけるので、両観光協会も参加をして全体で統一してやっていただく方が効果的だと思うがいかがか。

(知床斜里町観光協会 上野)

・定期的に、また、シーズン毎にやることは大事であると思っている。

(座長)

・おそらく他の研究機関も色々なアンケートを持ち込んでいるが、それが複数回複雑に実施されるよりも、包括的に観光の設問も含んだ調査として実施できれば共有して議論もできるし、それぞれが参考にすることもできると思うので、一度検討していただけないか。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・情報は共有していた方がいいと考えるので、観光協会と相談して進めていきたい。

(座長)

・どなたかに、仲を取り持つ役をやっていただきたいと思う。観光協会であればリードしていただきたいが、いかがか。

(知床斜里町観光協会 上野)

・自然観光地として、両町の役割もあるので、できれば自治体の行政も含めて総合的にやるべきことかなと思う。

(座長)

・それでは、地元の町に今の話のまとめ役をやっていただきたいが、いかがか。実施は、皆さんで手分けしてということになると思うが、調整役が必要になる。

(斜里町 河井)

・22年度と23年度に総合調査を実施している。1300件程のデータをとって、単純集計が終わり、報告書の作成を進めているところ。そのデータを見ていただいてから、ご検討いただければと思う。

(座長)

・すでに調査を直近でやっていらっしゃるようなので、そのデータを見せていただいてから、意味があれば是非毎年モニタリングをしていくという提案をしたいと思う。羅臼町はそれでよろしいか。

(羅臼町 石田)

・両町ということなので、斜里町さんがやるのであれば当然やらざるを得ない。

(座長)

・まず斜里町で実施した22、23年度のデータを、次の検討会議で提示していただき、その際に新しい観光一般も含めたモニタリングの体制について検討できればと思う。できれば、シーズンリティも考えたうえで毎年モニタリングをしていけば傾向も把握でき、そのデータを基に皆さんで議論をすることもできると思うので、前向きなご検討をお願いしたい。次回、斜里町からの資料提供ということで説明を含めてお願いしたい。

(事務局 野川)

・モニタリング計画案については、皆さんにもご協力いただける調査がありそうなので、ヒアリングにより修正し、戦略の修正とあわせてご報告差し上げるような形にさせていただきたい。

(座長)

・皆さんのお手元に平成24年度モニタリング計画案があるが、基本的にこれは過去の経過も踏まえてつくられた計画で、皆さんのご意見も参考に検討し直すということなので、ご承知おきいただきたい。

4. その他

資料4：利用適正化基本計画及び利用の心得の今後の取り扱いについて

(事務局 三宅)

- ・資料4に基づき、利用適正化基本計画及び利用の心得の今後の取り扱いについての説明。

(座長)

- ・エコツーリズム戦略で新しいルールや制度が決まってくると、それに合わせて今までのルールを廃止、統合、調整をしていくことになる。そのため、この戦略に基づいてこの検討会議で話し合われる内容を優先していくということになる。皆さんがここで決めたことが優先されていくとお考えになって結構である。

(知床財団 山中)

- ・利用の心得についてだが、基本計画とか管理計画とかは管理サイド、管理上の指針であったり、地域の人たちも含めた関係者の議論の場の指針であったりということになると思うが、利用の心得は、利用者の皆さんに具体的に知ってもらう必要があることである。ただ、現状では作ってそのままになっている。ホームページには載っていたり、あるいは世界遺産センターとかルサフィールドハウスに行けばパンフレットもあって掲示もされているが、そこをわざわざ通過していく人はごくわずかである。そういう中で、特に先端部地区については、危機一髪事例が発生しているのは、皆さんご存じのとおりである。環境省のアクティブレンジャーが極めて危険な人身事故直前の事例に遭ったり、ということさえも起こっているんで、作って終わりではいけないと思う。

具体的に利用者が必ずこれに接して入っていくような仕組み、あるいは事前に知ったうえで、入っていく仕組みをきちんと構築する必要がある。

過去の経過を振り返ると、もう何年もかけて議論を行った検討の場があったのだが、こういうあいまいな心得を目指していたわけではなかった。具体的に効果をあげることができる利用の仕組みを検討し、場合によっては法的担保も含むものも考えていくことが目標だったが、検討過程でいつの間にかお茶が濁されてしまっている。

現実的に十分機能していないという実態があるので、利用の心得はエコツーリズム戦略に基づいて実効性のある仕組み作りにステップアップしていかなければならない。

(座長)

- ・ご指摘の通りだと思うが、利用の心得の存在を無条件で肯定するのではなしに、この場で新しい仕組みやルールが決められたら廃止も含めて考えるということだと理解していると思う。ただ、いきなり廃止してしまうのはリスクが大きいので、新しい制度や仕組みができるまでは心得を直しながら使うということでご承知をお願いしたい。

- ・公園管理計画について、これは法定計画か。

(環境省 中山)

- ・法定ではないが、管理計画については準法定的な位置づけである。利用適正化基本計画を吸収するような形で、来年度一年で別の会議を立ち上げ、科学委員会や地域連絡会議とご相談しながら詰めていくという形にしている。ただ、それについても先ほどご指摘があったのと同じように、こちらの検討会議で利用に関するルールについての改定があれば、管理計画自体の改定もしていきたい。

(知床財団 田澤)

- ・知床岬の利用に関する申し合わせ事項というものがあった。この申し合わせも二十数年前のままなので、直すなり全面改定するなり、視野には入れておいた方がいいと思う。

(座長)

- ・先端部は過去の計画もあって非常に複雑なので、一度この新しい戦略の仕組みでやり直しをしてもいいのではないかなと思う。ご提案があれば是非進めていただきたい。

- ・他に無ければ、その他の項目に移りたい。

(知床斜里町観光協会 上野)

・先日の日曜日、私たち観光協会で五湖に行ってきたのだが、冬の五湖はエゾシカの食害がかなりひどい。これは私たちが見ている範囲ではあるが、観光客の踏み荒らしどころの騒ぎではない。立木が立ち枯れしそうな状況に危機感を感じたのだが、どのようなシカ対策が進められているのか。

(事務局 野川)

・エゾシカ対策については、幌別、岩尾別地区についても今年から試験的に駆除、個体調整を始めている。エゾシカ管理計画というのを科学委員会で立てており、第二期の計画が作られようとしている。

その中でも、幌別、岩尾別地区でどう個体数を減らして行くかという挑戦が始まっていて、エゾシカの管理については、今後も皆さんにご協力をお願いする部分もあるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

(環境省 中山)

・少し補足したい。岩尾別や幌別は、知床の中でも相当大集団でエゾシカが生息しているところで、岩尾別や幌別のシカをどうやって対処するかという点が知床全体のシカ対策の中で一番重要な問題である。それで、あえて今まで少し後回しにしてきたというのがある。中途半端に手を付けると、たとえばシカが駆除慣れしてしまったり、ズル賢くなってしまったりして獲れなくなるといったことがあり、岬の先端とか羅臼側のルサ地区では駆除手法を研究してきたところ。

それら踏まえて、幌別・岩尾別での取組を開始し始めているところであるので、対策が少し遅くなっている、ということをご理解いただければと思う。計画の中にはっきり位置づけているので、今後重点的に取り組んでいくことになると思う。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・例えば知床岬は昔の植生とはかなり変質しており、復元は困難と思う。積極的な駆除の取組が必要である。

・また、砂防ダムについて、不必要なところに魚道を作っている。本当に税金を無駄に使っていると思う。こんな小さな川にこんな砂防ダムがいるのかと疑問に思う。

(環境省 中山)

・エゾシカについては、つい先日、環境省の事業として知床財団が知床岬で捕獲を実施し、一日で130数頭捕っている。また新しくエゾシカが侵入してくれば捕るということで、そのために仕切り柵なども整備している。岬の先端のシカ対策は、知床財団の尽力だが、日本中に自慢できるぐらいの成果は挙げているので、そこは理解していただきたい。

(座長)

・ご提案いただいたことは、知床全体にとって重要な問題。砂防ダムの問題は科学委員会のなかでも繰り返し議論されている。ご意見を閉じられた場ではなく一般の場でもっと言っていただけることが大切。

【 閉会 】